

ゆめ風だより

書
左右津安輝子

障害者はいつ「市民」になれるのか

理事／らながく舎 ^{うだ}がわ ^{のり}お
宇田川 規夫

一九八四年八月二十日第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6日)発行

2006年にゆめ風基金から出された「障害者市民防災提言集」の書名には驚きを覚えたものです。「障害者市民」との呼称が新鮮だったからです。昔、東京で教員をしていた私にとつては大阪の障害児教育の実践は学ぶことが多かったのですが、防災の世界に転じても学ぶことが多いと思わされた一言でした。

しかし現実の社会はこの言葉を内実化するように変化していったでしょうか。東日本大震災での人的被害で、障害者の死亡率は全体の死亡率1・03%の2倍2・06%であると言われます。このデータはNHKが被災市町村に障害者手帳所持者の死亡者数を照会してまとめたものです。ですから回答しない市町村もあります。大きな被害を出した陸前高田市、気仙沼市等は回答なしですし、調査地域も最北は宮古市、最南は福島県新地町ですから、青森県や茨城県、千葉県の調査が入った数字は変わる可能性があります。

しかし地震以来このデータだけが東日本大震災で障害者が受けた生命被害を示すものとして使われ続けていま

INDEX

- 01 障害者はいつ「市民」になれるのか
- 02 リレーエッセイ 災害と障害者 第七十七回
- 03 あれから5か月、被災地はいま
～トルコ・シリア地震の現場から～
- 04 原発事故の最良の避難計画は、
GX法(脱炭素電源法)をなくすこと
- 05 業務継続計画(BCP)策定義務化に向けて
- 08 応援団からこんにちは! vol.6
- 09 ゆめ風ネット紹介
- 10 カンパをいただいた団体 / 事務局の動き
- 11 会計報告
- 12 各地からの風だより



仮設に住む被災者たち（アディヤマンにて）

あれから5か月、被災地はいま ～トルコ・シリア地震の現場から～

CODE 海外災害援助市民センター事務局長
よしつばき まさみち
吉椿 雅道

す。全体の人的被害について各市町村は当然全数把握をしており、公式発表の元となっています。しかし障害者についての公的記録はありません。いまだ厚労省の方に直接聞いたことがありません。「厚労省ではこのようなデータをとっていますか？」NHKのどのデータも知りたいと言われたので添付してメールしたのですが、残念ながら返事はもらえませんでした。

このデータを詳細に見ると別の様子が見えてきます。人口全体の死亡率に比して障害者の死亡率が際立って高い市町村があることです。地元の方に伺うと海沿いに施設があったとのこと、もともと行動しにくいハンディを抱えた人々に避難の時間的余裕がなかったことが伺えます。

今年は関東大震災から100年、大津波が奥尻島を襲った北海道南西地震から30年と大きな災害の節目の年となっています。人間は忘れやすいものですから、せめて節目の年にはきちんと見直しをして教訓を生活に落とし込みたいものです。しかし障害者にとっては日々の暮らしが綱渡り状態のため

「毎日が災害のようだ」とこぼす車椅子利用の友人もいます。だからといって災害大国日本に住んでいる以上、防災・減災の備えは欠かせません。自分でできなければ他人に頼むしかありません。そのツテがないなら様々なネットワークを利用して情報を得て、防災・減災対策を一步でも前に進めないと大変な目に会うのは、映画「逃げ遅れた人々」に出てくる障害者の姿を見ればわかります。他者に頼むのは気が引ける、自分でなんとかしなければダメだと思いがちです。教育も自分でなんとかできるような力を広げること目標にしています。前号で永村さんがお書きになったラーメン屋のある障害者の「おばちゃん食べさせて」はすごい発言です。このようなやりとりが普通にできる社会だったらどんなに暮らしやすいことかと思えます。災害時、みんなが困っているときに、①みんなが困っているから我慢しなきゃ、②この困り事は自分ではどうしようもないから何とか助けてほしい、どちらが必要な対応かは考えるまでもなくわかるはずですが、日本人の心情

2023年2月6日、トルコ南部を震源とするM7.8の巨大地震が発生し、トルコ・シリア両国で5万7000人以上が犠牲になった。

筆者は、阪神・淡路大震災を機に発足したCODE海外災害援助市民センターのスタッフとして発災4日後にトルコの被災地へと向かった。被災地カフラマンラシユやアディヤマンでは、十数階建てのマンション群がごとごとく倒壊しており、捜索活動が続いていた。現場では、一縷の希望を持って家族の帰りを待つ人たちが、たき火を囲み、悲しみを分かちあっている姿が28年前の被災地KOB Eの風景を思い出させた。

夜はマイナス6度の凍てつく寒さの中、被災者たちは絨毯だけ敷いたテントで身を寄せ合うように暮らしていた。トルコ政府はもちろん各国の救助隊、NGO、ボランティアが駆けつけ、捜索、物資配布、炊き出しなどの支援活動にあたっていたが、中でも全国各地から駆け付けたトルコの普通の市民ボランティアによる支え合いは目を引いた。私たちが被災地のどこを訪れても、チャイ（紅茶）や炊き出しの食事を提供してくれた。

としては①になりやすい気がします。だからこそ日ごろからいろいろな場所に出没して地域の有名人になること、そして最低限の防災の知識を身に付けておくことが大事だと私の地元では話しています。

阪神淡路大震災以来、各地に防災館が作られ、リアルな防災体験ができるようになりました。これらの施設は当然参加した人々が防災対策を進めるきっかけにすることを目的として作られています。であるなら多くの市民が参加し体験することが望ましいはずですが、にもかかわらず、車椅子利用者が起震室体験を断られるという事態が最近起きました。「危険だから」というのが理由だそうです。確かに車椅子利用者は床に這いつくばって身を守ることもできず、下手をすれば車椅子ごと吹き飛ばされるかもしれません。であれば、どうすれば車椅子利用者が身を守るのかを本人も周りも考えていかなければ「危険」から身を守ることができないはずですが。

あれから5か月、被災地は猛暑の夏を迎えようとしている。被災地の町には数か所の大きな仮設住宅村ができ、子どもたちの遊び場、食堂、心理ケア施設なども整備されている。政府による支援は、迅速かつ広範で、物資配布や住居、仕事斡旋、トラウマを抱えた子どもへのケアなどは手厚く行われている。だが、それ以外の女性や高齢者、障がいを持つ人たちへのSpecific（特有）な対応はあまり見られない。被災地のどの町も同じような作りで、目に見える画一的でトップダウンの支援が中心だ。仮設には「する事がない」、「普通の生活に戻りたい」とつぶやく女性たちも少なくなく、被災者一人ひとりの声があまり反映されておらず、住民主体のコミュニティの形成には至っていない。

今、CODEは現地のNGOと連携して、トラウマを抱えた子どもたちやその家族を対象にした「子どもと家族のケアセンター」の建設・運営をサポートしている。センターの幼児教育や心理ケアの先生たちは、仮設内の一軒一軒をまわり、被災者一人ひとりに寄り添った活動を実践している。

原発事故の最良の避難計画は、GX法(脱炭素電源法)をなくすこと

おかもと まさあき
岡本 正彰

1967年6月生まれ。脳性麻痺アテトーゼ型による障がい者。宇部市の脱原発グループ「いのち・未来 うべ」事務局長。「障がい者の防災・避難を考える市民の会」共同代表、事務局。



「上関原発を建てさせない」と街頭宣伝する岡本さん

今年2023年5月31日、脱炭素電源法が参院本会議で可決成立されてしまった。原子力発電所の運転期間の60年超への延長を盛り込んだ悪法である。一般の建物や機械でも60年超えといえは建て替えるのに、原発を動かし続けるなんて、危険しかない。原発は故障すれば暴走し、人間の手で制御できないほどの大事故となることは、12年前に起きた東日本大震災の福島原発事故を見ても明らかである。

福島原発事故が起こったとき、障がい者が避難所に見当たらず避難していないことが、青田由幸・八幡隆司著『原発震災、障害者は…消えた被災者』（解放出版社）を読んでもわかった。自分の力で動くことが困難な障がい者は家族や支援者の援助がなければ避難できないし、環境の変化で多動になったり、パニックになる障がい者は避難所に行っても、周りの人に受け入れられにくいのである。そうしたことから私は脱原発活動と並行し、災害時の障がい者避難について考えるようになり、仲間の視覚障がい者と共同代表になり、2018年5月に「障がい者の防災・避難を考える市民の会」を立ち上げ、月に1

度のペースで勉強を進めている。近年、毎年のように起こる豪雨の際の避難を障がい者が迷うことなく行うためには、個別避難計画を作ることが必要であるが、実際に作成できているのはわずかである。

自然災害時の避難計画が道半ばであるのに、原発事故の際の避難計画なんて立てられない。東海第2原発差止訴訟の控訴審準備書面においても、医療施設、社会福祉施設の避難計画について述べられ、避難計画の困難性が明るみにでた。いったん事故が起これば、どこまで逃げて避難すればよいかかわらないので、自然災害の際の個別避難計画が完成しようとも、それを機能させようがない。また、原発事故は終わりが見通せない。原発事故に備えるために、シェルターを作る障がい者福祉事業所があるが、それは結局のところ言い方を変えた置き去りである。福島原発事故の時のように支援者と離れ離れにされれば、命にかかわる問題にもなり、人格権の侵害となる。

原発事故が起きた際の避難計画なんてありえない。あえて言えば、GX法をなくすことだ。

業務継続計画（BCP）策定義務化に向けて

事務局長 八幡隆司

なぜ今、BCPが義務化されるのか？

福祉サービスを提供する事業所に、2024年3月末までにBCP策定が義務付けられました。いくらBCPが重要とはいえ、なぜ今、義務化されるのかということには疑問が残ります。

実は国においては「地震防災戦略」及び「新成長戦略実行計画（工程表）」（2010年6月閣議決定）において、企業のBCP策定率を2020年までに大企業はほぼ全て、中堅企業は50%との具体的な目標を掲げました。ただ2021年の内閣府の防災白書によれば、BCP策定率は大企業で70・8%、中小企業で40・2%にとどまっていることもあって、冒頭のように福祉サービス事業所にもBCPが義務付けされたのではないかと考えます。

中小企業庁ホームページ「中小企業BCP策定運用指針」を見ると次のようなことが書かれています。

「企業が大地震などの緊急事態に遭遇すると操業率が大きく落ちます。何も備えを

行っていない企業では、事業の復旧が大きく遅れて事業の縮小を余儀なくされたり、復旧できずに廃業に追い込まれたりするおそれがあります。一方、BCP導入している企業は、緊急時でも中核事業を維持・早期復旧することができ、その後、操業率を100%に戻したり、さらには市場の信頼を得て事業が拡大したりすることも期待できます」。

福祉サービス事業所にとってのBCPとは？

しかし企業におけるBCPと福祉サービスのBCPは根本的な違いがあると私は思っています。BCPには必ず「重要業務の選定」「重要業務の継続」といった項目があります。企業にとっては最も収入を当てにできる事業がそうなりますが、福祉事業所にとって重要なものは、収入面よりも利用者の生活確保となります。相談支援事業で災害による相談電話をいくら受けても収入にはつながらないので、BCP的には休止業務となってしまいますが、実際には

重要な業務です。通所の事業所で利用者が避難に困っているからと言って自身の事業所で受け入れたとしても、一切費用は入ってきません。このように福祉サービス事業では当面の収入を無視しても利用者に寄り添うことが要求される場合が、災害時には多々発生します。

BCP策定自体は必要なことなので、ゆめ風基金では厚生労働省の例示入りひな形をエクセル形式からワード形式に変換し、内容を修正して掲載することにしました。これなら自分の事業所に合った内容に少し修正するだけなので、まず1日で完成するはずです。詳しくはゆめ風基金ホームページの障害者防災のページをご覧ください。

また災害時の対応はBCP策定だけでは不十分であり、実際の災害をシミュレーションすることが大事だと思っています。このBCPシミュレーションについてもホームページに掲載しています。

BCPについて分からない、アドバイスが欲しいという方は気軽にゆめ風基金までご相談ください。

東日本大震災と障害者

私の実家は岩手県です。自然豊かで皆さんが想像する田舎のイメージがぴったりの所です。

そんな岩手県が12年前の東日本大震災で甚大な被害を受けました。津波でたくさんの方が亡くなり、建物も津波で押し流され、よく遊びに行っていた陸前高田の松林も一本を除いてすべて流されてしまいました。私の自宅は内陸部で大きな被害はありませんでしたが、よく車で通っていた市内の橋が地震の影響で通行止めになったり、道路が液状化して凸凹になったり。特に大変だったのがガソリンや灯油が全く入ってこなくて本当に困りました。ガソリンスタンドは常にガソリンと灯油を買い求める人で渋滞、買えなくて店員さんと喧嘩している人、朝

の4時頃からスタンドの前で待っている人。トランプの話がつきませんでした。市内の障害のある人や、高齢者は灯油を優先で支給されたことがあり、その時に近所の人に「良いねお宅は、優先的にもらえて」と言われたこともありました。ちよつと傷つきましたが、毎日寒かったのでありがたく使わせていただきました。生活していくのに精いっぱい他人を思いやる余裕がなかったから仕方ないと今では思っています。

また、妹は小学6年生で卒業式と中学校の入学式を控えていたのですが、沢山亡くなられた人や、行方不明の人がいるのにお祝い事は不謹慎、自粛すべきというムードで、例年通りのお祝い事をする事ができませんでした。その時は本当に自粛しなければいけない雰囲気です。町中がお通夜のようなのを覚えています。

大震災から11年経ちましたが、毎年テレビやラジオでどれだけ被害があったか、それからどれだけ復興したかなど放送されています。被災地について知ってもらうことはとても素晴らしい事だと思いますが、被災から何年経っても「被災してかわいそうな所」というイメージが消え

星野 詠り



自立生活センター・東大和 事務員。怪我で脊髄を損傷し車椅子生活となる。現在、自立生活センター・東大和で事務をしつつ、ILP（自立生活プログラム）にも積極的に参加。その他、小学校での車いす体験授業の講師や、市内の障害福祉事業所の団体で構成されたグループ「東大和障害福祉ネットワーク」の役員としても活動。バリアフリー上映会の開催、障害福祉社について情報共有のため、様々な取り組みをしている。

ないのでないかな…とも思います。

「自身、街中で「若いのに車いすで大変ね」、「かわいそうに、早くよくなって歩けるようになるといいね」と話しかけられる事があります。確かに歩けないし、今後も車いすです生活しなければいけないけれど、有難いことに仕事もしているし、結婚して子供にも恵まれて、障害はあるけれどとても幸せに生きています。

今、私は自立生活センター・東大和で勤務しながら市内のボランティアセンターの設置訓練へ参加したり、ヘルパー対象の防災研修会の企画をしたりしています。いつも東日本大震災は本当に大変な被害だったと話をしますが、それと同時に復興も進んでいるのでぜひ遊びに来てねとも伝えるようにしています。

被災地だから、障害者だから、という理由で「かわいそう」と思われたくない。そう思わないようにこれからも活動していきたいと思っています。



池袋へ外出した時の様子

ゆめ風ネットワーク

現在、全国 49 の障害者団体が『ゆめ風ネット』として災害時の窓口を引き受けてくださっています。お住まいの地域で、地震や豪雨などによる被害が発生した際は、お近くの団体へご一報ください。

ネットさっぽろ 草の実会 平岸の里 [011-817-9080・札幌市豊平区平岸四条 17-6-6] **ネット宮城** 奏海の社 [0220-44-4171・登米市登米町寺池桜小路 96-3] **ネット秋田** 秋田県被災障害者救援連合 [018-846-3916・秋田市飯島鼠田 3-6-12] **ネットいわき** いわき自立生活センター [0246-68-8925・いわき市中央台高久 2-26-4] **ネット三糸** 地域たすけあいネットワーク [0256-34-2448・三糸市本町 6-3-76] **ネット富山** 自立生活支援センター富山 [076-444-3753・富山市新川原町 5-9 1F] **ネット福井** 農と地域のふれあいネットワーク [0776-52-6464・福井市大東 1-3-12] **ネット上田** わっこ自立福祉会 [0268-39-4568・上田市保野 830-1] **ネット加賀** ひまわり教室 [076-243-6786・金沢市十一屋町 4-34] **ネット埼玉** 共に生きる街づくり情報センター [048-738-4593・春日部市大場 1288-1] **ネットJDS** 日本ダウン症協会 [03-6907-1824・豊島区南大塚 3-43-11 5F] **ネット東大和** 自立生活センター東大和 [042-567-2622・東大和市南街 1-22-6 1F] **ネット立川** 自立生活センター立川 [042-525-0879・立川市柴崎町 2-10-16] **ネット横浜・港北区** らんがく舎 [045-431-4070・横浜市港北区菊名 4-10-37] **ネット静岡** 静岡障害者自立生活センター [054-288-6068・静岡市駿河区曲金 5-4-58] **ネットきくがわ** 溝口 千津子 [0537-35-8303・菊川市仲島 1-12-1] **ネット愛知** AJU 自立の家 [052-841-9888・名古屋市昭和区下構町 1-3-3] **ネット名古屋** わっぱの会 [052-910-1001・名古屋市北区山田 2-11-62 1棟 1F] **ネット岐阜** 戸田 二郎 [058-388-1864・羽島郡笠松町円城寺 838-1] **ネット三重** 共同蓮三重 [059-273-6930・津市岩田 12-5] **ネット滋賀** まちかどプロジェクト [077-543-2844・大津市大萱 5-6-8] **ネットJCIL** 日本自立生活センター JCIL [075-671-8484・京都市南区東九条松田町 28 101 号室] **ネット奈良** ひまわりの家 [0745-42-2919・磯城郡三宅町戸伴堂 850] **ネットひょうご** 拓人こうべ [078-642-0142・神戸市長田区大塚町 6-1-1] **ネットはりま** 菜の花企画 [0792-84-4668・姫路市東延末 1-30] **ネット伊丹** ポポの家 [072-779-1771・伊丹市秋野 2-2-3] **ネットあかし** 作業所ほのほの [078-913-5315・明石市本町 1-6-3] **ネット淡路島** ぶったあ福祉会 [0799-70-6145・淡路市岩屋 488-1] **ネットわかやま** 自立生活応援センターわかやま [073-472-6731・和歌山市太田 47-7] **ネット岡山** 岡山マインド「こころ」 [086-697-0206・倉敷市真備町箭田 1679-2] **ネットしまね** 太田 明夫 [0854-83-2183・大田市三瓶町池田 3268-3] **ネットひろしま** 障害者生活支援センター・てごーす [082-294-4185・広島市西区小戸内町 2-7-5] **ネット尾道** 障害者自立生活支援センターおのみち [0848-38-9550・尾道市美ノ郷町三成 1217-1] **ネットやまぐち** NPO 法人 優喜会 [0833-76-0550・光市大字小周防 1658-1] **ネットかがわ** ねむ工房 [0877-73-4177・仲多度郡琴平町上櫛梨 422-1] **ネット愛媛** ルーテル作業センタームゲン [089-924-8533・松山市木屋町 1-9-4] **ネットまつやま** 自立生活センター松山 [089-986-3245・松山市萱町 2-8-2 1F] **ネット今治** 作業所こまどり [0898-54-4365・今治市菊間町長坂 2001] **ネット徳島** 社福) ハートランド [088-602-1003・徳島市南庄町 5-13-1] **ネット福岡** ちくほう共学舎虫の家 [094-962-6003・鞍手郡小竹町御徳 167-31] **ネット大分** 村谷 由美子 [097-597-5315・大分市判田台南 2-10-4] **ネット宇佐** みんなの家 [0978-32-3365・宇佐市清水 49-3] **ネットながさき** 間歌泉 [0957-45-3858・大村市溝陸町 1029-110] **ネットいさはや** 諫早手話サークル福祉部 [0957-28-3800・諫早市有喜町 726-2] **ネットさが** たんぼぼの家 [0952-74-4568・多久市多久町 2744-63] **ネット熊本** 自立生活センターヒューマンネットワーク熊本 [096-366-3329・熊本市白山 2-1-17 1F] **ネットみやざき** YAH! DO みやざき [0985-31-4800・宮崎市青葉町 52-1] **ネットかごしま** 社福) ルピナス会 [0994-63-8839・肝属郡東串良町新川西 4995-11] **ネットおきなわ** 自立生活センター・イルカ [098-890-4890・宜野湾市伊佐 4-4-1]

凡例 **地域** 団体名 [電話番号・住所]

応援団からこんにちは！ vol.6

災害時にはより小さな地域単位、「町」や「村」での情報収集が必要になってきます。そこで、いざ、災害が発生したときに「地域単位」で情報収集してくださる団体を募集することにしました。それが「ゆめ風応援団」です。



兵庫県西宮市

NPO法人 メインストリーム協会
スタッフ 平田 昌之

メインストリーム協会の平田です。私は頸椎損傷という障害です。メインストリーム協会で役割は、新しく働く介助者の研修などを主にしています。

1989年11月11日にメインストリーム協会は誕生しました。設立した当初は数名で始まったメインストリームも、34年経った今では、当事者スタッフ・介助スタッフ合わせて49名、さらにアルバイトの介助者を含めると、200名近くにもなる大きな団体になりました。

私たちの理念は、どんな重い障害を持つ人でも地域であたりまえに暮らせる社会、誇りを持って社会の主流(メインストリーム)を堂々と生きていける社会を実現することです。

具体的な活動としては、3つの役割を柱としています。1つ目は、サービスの役割として介助派遣、その他ピアサポート、新しく地域で一人暮らしを始める人の自立生活プログラムがあります。2つ目は、権利擁護活動(行政交渉など)、3つ目は、障害者のイメージを変えることです。これらの役割を基本として、障害当事者が主体となって活動をしています。

この活動以外に、海外支援もしています。海外では、介助制度も整っておらず、障害者が生活することが難しい国がほとんどです。アジア6カ国(韓国・台湾・モンゴル・カンボジア・ネパール・パキスタン)、中南米(コスタリカ・ボリビア)など。そのような国でも、障害者があたりまえに地域で暮らすことを実現して欲しいと思い支援を続けています。

「ゆめ風応援団」のみなさんからの自己紹介をかねたメッセージをお届けするシリーズ第6弾!



京都府八幡市

社会福祉法人 鳩ヶ峰福祉会
理事 沼田 肇

こんにちは。社会福祉法人鳩ヶ峰福祉会の理事の沼田と申します。

ゆめ風基金さんにお世話になったのは、2018年6月18日に発生した、大阪府北部地震によるグループホームの被害を通してでした。

借りていた民家の基礎部分に亀裂が入ったため、やむなく別の借家を借りて新しいグループホームを開設したのですが、改修費の捻出に苦勞していた私たちに迅速に対応して下さい、本当に嬉しく心強く思いました。

私たちの原点は、今から40数年前、1980年に開所した無認可共同作業所です。開所10年後に認可施設「やわた作業所」となり利用者の数も増え、現在は八幡市以外の就労グループも合わせ65名の方が利用しています。また、3ヶ所のグループホームで27名の方の暮らしを守る事業、相談支援事業や短期入所事業など障がいのある人の地域生活を守る事業、障がい児童を支援する放課後等デイサービス事業など、障がいのある人が地域の中で安心して働き、豊かな生活ができるように事業と実践を進展させてきました。どんな人でも「発達を遂げていく力と権利」があると信じて、これからも障がいのある人の願い、要求に応じていきたいと思っています。

NPO 法人 ゆめ風基金
会計報告 328,271,847円
 ただいまの基金額
 貸付金の残高 0円
 これまでの救援金・救援活動費総額 584,042,595円
 総会員数 14,050人

		前回報告残高	この3ヶ月の動き 4月から6月まで	今回報告残高 2023年6月現在			
収支計算書	収入の部	会費収入	2,816,510	2,347,184	5,163,694		
		寄付金収入	3,429,966	3,260,786	6,690,752		
		臨時寄付金収入	47,000	1,483,830	1,530,830		
		助成金収入	122,850	807,125	929,975		
		事業収入	1,293,832	42,589	1,336,421		
		雑収入	9,987	0	9,987		
		貸付金返済収入	0	0	0		
		保証金返済収入	0	0	0		
		預り金収入	451,063	546,260	997,323		
		未収入金収入	0	0	0		
		未払金収入	0	0	0		
		合計	8,171,208	8,487,774	16,658,982		
		収支計算書	支出の部	救援金支出	2,000,000	500,000	2,500,000
				救援活動支出	0	0	0
貸付金支出	0			0	0		
基金拡大活動支出	94,547			153,671	248,218		
防災活動事業支出	180,260			11,770	192,030		
広報活動事業支出	524,287			476,434	1,000,721		
その他事業支出	188,550			152,600	341,150		
人件費支出	3,136,898			3,861,260	6,998,158		
その他事務費支出	1,796,654			1,506,520	3,303,174		
預り金支出	578,928			402,143	981,071		
未払金支出	280,360			0	280,360		
固定資産購入支出	0			0	0		
保証金支出	0			0	0		
合計	8,780,484			7,064,398	15,844,882		
差引：収支差額		△ 609,276	1,423,376	814,100			
貸借対照表	資産の部	基金特別会計預金	321,903,205	6,368,642	328,271,847		
		一般会計現金預金	5,517,024	△ 4,945,266	571,758		
		[現金預金合計]	327,420,229	1,423,376	328,843,605		
		障害者貸付金	0	0	0		
		有形固定資産	662,896	0	662,896		
	その他の資産	1,100,030	0	1,100,030			
	合計	329,183,155	1,423,376	330,606,531			
	負債の部	未払金	0	0	0		
		預り金	145,297	144,117	289,414		
		その他の負債	0	0	0		
合計		145,297	144,117	289,414			
差引：正味財産		329,037,858	1,279,259	330,317,117			

脚注 1. 今回は3月から6月までの3ヶ月間の報告です。
 2. 救援金は救援活動として1件の支払いがありました。(2022年トルコ・シリア地震)
 3. 3月の報告に誤りがあり、前回報告の一部について次のように費目替えを行っています。【その他事務費→広報活動事業費：57,400円/人件費→その他事務費：165円】
 4. その他は特に大きい変動はありません。

災害別の救援金総額 以前に他の災害でお届けした救援金はゆめ風 WEB サイトとブログに掲載しています

東日本大震災	2016年熊本地震	2018年西日本豪雨	2022年福島県沖地震
350,127,104円	55,598,387円	45,164,095円	6,956,790円

カンパをいただいた団体 2023/04-2023/06

お店に募金箱を置いてくださったり、街頭募金やバザー、イベントで集めてくださったりしています。本当にありがとうございます。もしも記載漏れがありましたらご連絡ください。

4/4	Tea for Two (四街道市)	6/19	そうそうの杜 (大阪市)
4/14	錦保育園 (登米市)		奏海の杜 (登米市)
4/24	ゆうのゆう (大阪市)	6/21	白百の樹 (横浜市)
5/8	麦っ子畑保育園 (座間市)		コーヒータイム (二本松市)
5/9	ABC 研究所 (北九州市)	6/22	得雄寺 (南松浦郡)
5/23	田辺三菱製薬労働組合 (大阪市)	6/24	坪井令夫商店 (昭和区)
6/6	浜松協働学舎を支える会 (浜松市)	6/26	大杉の里 (上越市)
6/7	ひまわり教室 (金沢市)	6/28	楽風 (さいたま市)

事務局のうごき

2023年4月から6月の動きを一部ご紹介します。

毎週月曜日	事務局会議	毎週金曜日	新 HP 打合せ
4/5	ゆめ風基金理事会	6/5	天王寺区講演打合せ
	BCP (事業継続計画) 研究会	6/7	BCP 研究会
4/21	大阪災害支援ネットワーク (OSN) 世話役会	6/8・9	防犯防災総合展 2023 セミナー参加
5/8	ゆめ風基金理事会	6/9	関西そなえ隊 第50回定例会参加
5/10	BCP (事業継続計画) 研究会	6/12	ゆめごよみ 104号編集会議
5/15	障害者の自立と完全参加を目指す	6/13・14	ゆめごよみ 103号通信発送
	大阪連絡会議 (障大連) 全体会打合せ	6/19	OSN 世話役会
5/22	OSN 打合せ	6/21	OSN 打ち合わせ
5/23	神戸西区自立支援協議会 講演	6/26	令和5年度第1回大阪災害支援活動連携会議
5/24	ネット松山話し合い (ZOOM)	6/27	障大連・全体会「防災BCP学習会」講演
5/25	OSN 世話役会	6/27	阿倍野防災センター体験
5/27	大阪府教職員組合定期大会参加	6/28	関西障害者定期刊行物協会総会参加
5/31	大阪市身体障害者団体協議会講演打合せ	6/30	天王寺区講演打合せ

そよ風、つむじ風、六甲おろし

各地からの風だより

2023.3 - 2023.6

▼永さんのお話を聞きたくなってしま頃ですが、想い出は沢山あるので幸せです。本当にわずかですが送ります(南陽市)▼少しですが、ゆめ風との縁を大切にしたいと思っています(東京都大田区)▼『富士山はいつ噴火するのか』という本を読みました。南海トラフの放送もあり、おちつかない春です(狛江市)▼アベさんが、いろんな人にインタビュする企画がおもしろいと思います(大阪市)▼「だより」を読むと、自分も体に爽かな風を吹き込まれます(入間市)▼『通販生活』で知りました。83才お便りありがとうございます(札幌市)▼ノーマライゼーションの考えと世界はあたり前の社会であることを、いつも応援支持しています(秋田市)▼神尾京子さんへの追悼のエピソード心にしみました。ありがとうございます。無認可からスタートした保育園なので、たくさんの縁なくしては今に至っていません。47年になりました(座間市)▼誕生日を無事に迎えられたことにお礼をこめて送ります(高知市)▼国民年金の振り込みのついでに送金します。石川県の地震災害に役立てて下さい(豊中市)▼コロナ禍で福祉業界は対応に苦慮しましたが、また元氣回復を望みます(高槻市)▼気候変動から全ての障がい者が守られます様に(長岡市)▼日々の暮らしが、楽しいのが当たり前になる政治フー！(静岡市)▼牧口二二さんの神尾さんの話、じーんと胸に來ました(川越市)

▼永村理事の「迷惑をお互いさまに」同感！自分のチョットした行動で他人様が、喜んでくれた姿を覗いて嬉しくなるような人がいっぱい増えますように(寝屋川市)▼お互い様の気持ちをこめて(静岡市)▼心に灯りを灯します活動応援しています(枚方市)▼わずかですが妻と合わせて寄付させていただきま(守口市)▼還暦を迎え、記念に寄付させて頂きます(鎌倉市)▼災害が他人事ではない日常、おたがいがんばりましょう(苫小牧市)▼広報紙を拝見していると、普通に暮らせる事に感謝しなくてはと思い知らされます(取手市)▼だれでもが迷惑を気兼ねなくかけられるような社会、いいと思います(大阪市)▼リレーエッセイ高橋めぐみさんの「私は周りから守られすぎた」という言葉にハツとして、考えさせられました。高橋さん、ありがとう(荒川区)▼弱者の生きやすい社会。これが本当の平和の世(横浜市)▼年金は上がらず、物価があがり私もしんどいですが、被災された方々が心配です(池田市)▼ほっとできる時間、笑い合える時が少しでも有りますようにと願います(八尾市)▼線状降水帯など、いろいろ困った災害が多くなりましたね。自然がへソを曲げると全ての物価高騰。困った物です(横浜市)▼ヨーガイベントでのドネーションが集まりましたので送ります(八重山郡)▼7月7日、永さんの命日に心ばかりですが、忘れないとの思いで(南陽市)

ゆめ風ブログ (<https://yumekazek.com/blog/>) にも掲載しています

編集後記 ゆめ風基金のホームページが新しくなりました。更新中のページが多いので、すべての記事を見ていただくにはもう少し時間がかかりそうですが、一度ご覧ください。新型コロナウイルスが5類に移行したとはいえ、まだまだ猛威を振るっています。事務局でも7月に初めて感染者が出ました。みなさまもお気を付けください。

ゆめ風基金の SNS やウェブサイト

Facebook
yumekazefund



YouTube
@user-jt6wo9lk8q



Instagram
yumekazek



Website
yumekazek.com

